



二中だより

平成21年度 10月号

新座市立第二中学校 校報部

新座市野火止7-17-10

☎ 048(477)1212

10月

校訓 まごころ

学校教育目標

明朗

向上

自主・自立

かさについて思うこと

校長 森田和憲

小雨の降る中でしたが体育祭も無事終わりました。生徒と教師が一体となった感動的な体育祭でした。保護者のみなさまには応援ありがとうございました。

今月は昇降口のかさを見ていて思うことを書きます。

かさを置き忘れた記憶

小学校の2年のとき、かさを電車のなかに置き忘れたことがある。母に何と言いつてもしようかと考えた。

学校名と名前を書いてあったかさは、ある建設会社の方が拾ってくださり、駅へ届けるとともに学校までわざわざご連絡をくださった。担任の先生から連絡を受け、かさを拾ってくださった相手のお名前とご住所がわかった。父にお礼の手紙を書くように言われ、相手の方へお礼の手紙を書いた。父からのお礼の手紙を添えて、送付した。その後、お返事をいただき、何度か学校の様子などを伝えた手紙を書いた記憶がある。

物を大切にすること

昭和30年代のおわりであったが、今と比べると物を大切にしていた。裕福ではなかったが、不自由ではなかった。

鉛筆は小さくなるまで使った。短くなった鉛筆を差し込み、長くして使うためのホルダーもあった。靴下やズボンは穴があけば、つぎをあててもらい

はいた。それは、貧しさではなく、まだ使える物は大切に、最後まで使おうとする心がけだったように思う。

1つの消しゴムは1年以上使った。今は落ちていても拾う人もいない。

昇降口のかさ立てには、いつもかさがあふれている。取りに来るように言っても実際にとりに来る生徒は少ない。

「もったいない」という日本のことばに感動し、実践して世界に広めようとしている外国人がいる。当の日本人は、豊かさにおぼれて、何とも感じなくなってしまうのか。とても残念に思う。これが豊かさと言ってよいのだろうか。

家族がどのようなかさを何本もっているか知っているだろうか。恥ずかしながら我が家でも、把握はできない。ビニール傘はいつの間にか増えている。本当に物を大切にすることが必要である。せめて最後まで責任をもって、持ち物の面倒を見てほしい。もし、使えなくなったら自分で処分する責任をもつことが必要ではないか。昇降口のかさ立てに置き去られたかさを見て思う。

時代は変わったが、子どもの頃、親から言われたことや、ふるまいはいつまでも心の中に残っている。今の時代、大人は何を子供たちの心に残すのか、改めて考えさせられる。

子供を不幸にするいちばん確実な方法は、いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやることである。 ジャン・ジャック・ルソー